

学生と考える「魅力ある授業」

Good Idea賞 受賞者決定

学生・教職員が共に「授業」を考えるFD(Faculty Development)活動の重点目標として、『魅力ある授業づくり』をテーマに学生と教職員が授業を考えるきっかけづくりとして、学生から広く意見などを募集しました。

今回は授業改善についての「アイデア・意見」や、「授業あるある・つぶやき・川柳」の2部門を設け、

82人の学生から129作品の応募があり、8作品8人にGood Idea賞が贈られました。

※FD活動・・・主に授業改善をはじめとした教育活動、改善に向けた教員の資質向上策として組織的に取り組む活動。

授賞式レポート

2021年12月1日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA 1階アクティブホールでGood Idea賞授賞式・発表会が開催されました。石田康行高等教育推進部長(応用生物化学科教授)が司会進行を務め、竹内芳美学長のあいさつの後、受賞した学生8人に盾と副賞が贈られました。

授賞式の後には発表会・意見交換会が行われ、冒頭に石田教授からGood Idea賞の選考に携わった、各学部から選考された16人の学生選考委員について紹介がありました。発表会にはその中から2人の学生選考委員が出席しました。



学生選考委員
藤田航輝さん
経営情報学部
経営総合学科3年



学生選考委員
岡田康宏さん
国際関係学部
国際学科4年



Comment

書道の遠隔授業では、先生の書いたお手本を見て実際に書くことができました。このような参加型の授業であれば、みんなも集中できるのかなと思います。

発表者 児玉愛さん



佐竹さんはオンライン授業で、なかなか集中力が続かずに苦労していた時、心のスイッチを切って気持ちを落ち着かせ、授業を乗り切ったことから、このアイデアを思いついたそうです。



オンライン授業は講義の内容が学生に伝わりにくいという問題点があり、特に一方通行な授業は退屈に感じてしまったため、参加型の授業を多く取り入れるなどして改善すること、他大よりもレベルの高い授業ができるのではないかと発表しました。



作品のきっかけは
オンライン授業

学生の興味を
引く授業を

オンライン
心の中は
オフライン

佐竹 凌弥さん
工学部 都市建設工学科 4年



Good Idea賞受賞作品全8作品と、発表内容、発表に対する会場からのコメントをご紹介します。

受賞全8作品を紹介!!

授業あるある・つぶやき・川柳部門

『院生先生の特別講義授業』



コロナ流行により大学院生が自分の研究活動を発信する機会が激減している現状と、学部生が研究活動についてあまり知らないまま、研究室の選択や卒業研究を行っている現状を打破するために、授業を活かして解決できないかと考え、思いついたアイデアである。私自身が大学院生であり、普段からこれらの現状を体験していたため、このアイデアを着想した。具体的内容は、研究室配属前の学科必須などの授業（スタートアップセミナーなど）を使って、大学院生が自分の研究活動について授業する。授業内容では、単に自身の研究の説明だけでなく、自分の研究室ではどのような活動をしているのか、どのような生活を送っているのかなど院生ならではの本音や視点で話す。これにより、「院生と学部生のつながり強化」につながり、講義や専門知識修得のモチベーション向上や、大学院進学への促進、ひいては中部大学の研究力向上につながり得る。

堀 天さん
大学院生 生命科学部 生命科学専攻 博士後期課程1年

研究力の向上へ

堀さんは中部大学の魅力を研究力と話し、「THE世界大学ランキング2021被引用論文(研究影響力)では東海地区総合で第二位であり、さらに国内の論文の25%を大学院生が担っていることから、この講義により研究力の向上、中部大学の魅力増加につながるのではないかと発表しました。



Comment

なかなか面白いアイデアだなと思いました!

長谷川勝 教授
(工学部電気電子システム工学科)



先生では言えない、大学院生ならではの研究室の長所や短所を教えてください。

発表者 石川桃佳さん



目覚めたら教授と二人

Zoom授業



石川 桃佳さん
応用生物学部
食品栄養科学科2年

本当にあった怖い話

この川柳は石川さんが1年生の時に、自宅で遠隔授業を受けていた際、授業後半に寝てしまった目を覚ますと教授と画面越しで2人きりになっていたという「本当にあった怖い話」を題材に詠まれました。



遠隔授業の問題点

遠隔授業は、集中力が続かなくなることや、1日で遠隔と対面が交互になると学内で遠隔授業を受講する学生が増え、「遠隔なのに密」という事態に陥ることなどを問題点として発表しました。



カメラオン・オフ問題

遠隔授業の問題の一つに「カメラオン・オフ問題」を挙げ、授業時にカメラをオフにする学生が多いためチャットでのやりとりになり、その分授業時間が削られると話しました。

Comment

カメラオン・オフ問題はよく耳にします。事前になぜカメラが必要なのか学生に説明し、しっかり約束をすればトラブルを防げると思っています。

石田康行 教授



『豊かな教養科目の自由選択を』



私は、教養科目にもっとみんなが興味を持つような授業内容の授業を取り入れていくべきだと思う。今の教養科目は種類が偏っているため、こんな授業を受けてみたいなどと内心で思っている、実際に学べない人が多いと感じる。また、倍率が高すぎるのも問題だ。学生からアンケートを取り、人気な授業は増やし、不人気なものは新しい科目に変えるなどしてもっと教養科目の倍率を均等にするべきでもある。私的には、もっと心理系や情報系の教養科目があってもいいのではないかと考える。多くの学部学科が揃う中部大学だからこそできる、よりいっそう豊かな教養科目の自由選択を目指して欲しい。

まつおか ななみ
経営情報学部 経営総合学科2年

きっかけは友人

松岡さんは、友人が教養科目がなかなか受講できずに困っていたのを見て、教養科目の種類の偏りと倍率の高さを問題視し、この意見を応募しました。



人気のある科目は月曜日の朝イチに

作品で紹介した改善点以外に、「人気のある授業は月曜日の朝イチにすれば嫌でも減るのではないか」というユニークなアイデアも発表されました。



Comment

大学で学びたいことが学べないのはもったいないので改善してほしいと思いました。

学生選考委員
岡田康宏さん



採用後

サボった講義のツケが来る

ツケが来る



小川 高昭さん
工学部 建築学科 4年

就職活動で感じた後悔

就職活動をしていく中で、勉強不足を実感したという小川さんは、後輩へのメッセージになればと思いこの川柳を詠みました。



就職活動で勉強不足を後悔し、内定を得た後も「本当にやっていいのか」と不安に思っていたため、現在は仕事で役に立てるよう毎日勉強をしていると話しました。



後輩へのメッセージ

「大学4年間は長いようであつという間に終わってしまいます。純粋に興味を持ったことを勉強できるのは大学生の特権です。コロナ禍で大変だとは思いますが、「少し先の未来を見据えた行動」をしてください。」とメッセージを送りました。

Comment

後輩にはメリハリをつけた生活を送って欲しいと思います。

発表者 佐竹凌弥さん



小川さんのメッセージを聞いて、一つ一つの授業をもっと大切にしないといけないと思いました。

発表者 竹内隆登さん

『強みを生かした交流』

私が思い描くこれからの理想の授業は、今よりももっと他学部や他学科との交流がある授業です。他学部や他学科の学生と交流することで、今までにない交友関係を得ることが出来ます。そのことで、その学生から自分の専門外の知識について教えて貰えることが容易になります。社会に出て自分の専門の知識は必要ですが、自分の専門外の知識もある程度知っておくことでもっと広い視野で物事を見られるような人材になれるからです。



竹内 隆登さん
現代教育学部 現代教育学科 1年

悩んだ入学当初

竹内さんは入学当初、学科になかなか馴染めず悩んでいた時、全学共通科目を受講して他学部の学生の友人ができ、さらにサークルに所属して他学部の人と関わることで自分の居場所ができたと感じ、今回の意見を応募しました。



ワンキャンパスを生かした交流を

「ワンキャンパス」「文理融合の総合大学」が中部大学の強みであり、その強みを生かして授業でももっと他学部の学生と交流する機会を作ると良いのではないかと話しました。



Comment

異分野の人と関わることは今後の人生においてもとても大切なことだと思います。



竹内芳美 学長

全学共通科目でグループワークの多い授業だと、もっと他学部の人と交流できてより良いと思います。



発表者 松岡七海さん

高め合う

学年学部

隔てなく

交わる授業

知識の共有



児玉 愛さん
人文学部
コミュニケーション学科 2年

他学部・他学年との関わりが魅力

児玉さんは、他学部・他学年の学生と意見を交わす場があり、さまざまな角度から新しい発見ができた、知識を共有できることが中部大学の魅力であると感じ、この作品を応募しました。



発表会も魅力

「今回の発表会のような場も魅力的で、このような取り組みを今後いろいろな授業で導入されることを期待したい」と話しました。また、「先輩が後輩に今後の授業の取り組み方をレクチャーする機会がある」と良いと感じ、最後に「中部大学が大好きです」と手作りのボードを披露しました。



Comment

自分とは違う考えに触れることで、新しい世界が見えるのではないかと思います。

学生選考委員
岡田康宏さん



『遠くても 繋がる先生と学生』



私はコロナ禍が終息したら行われると良いと思うことは、授業で書いたレポートや課題を通じて先生と先生のやり取りである。コロナ禍で対面授業が遠隔になった際、今まで一人ずつにコメントがなかった教科もコメントが返ってくるようになった。また、パソコンで提出したレポートには、必ずコメントが返ってきた。先生に自分の書いた文章に対し、良くも悪くもコメントをつけて頂いたことで、友人と会えず、実際に大学に通えなくても、学びのモチベーションを落とさず安心して授業を受講できた。更に、実際に先生とお会いした際に、直接声をかけて頂いた事が何よりの励みとなった。コロナ禍が終り対面授業になっても、時々で良いので遠隔授業の頃のように、自分の提出したものにコメントしてくれるようになると、先生との繋がりが更に感じられ、安心して受講でき、先生への質問もしやすくなり、更なる学びの向上にも繋がるのではないかと。

はつとり
服部 稜歩さん
人文学部 歴史地理学科 1年

遠隔授業での先生との関係

服部さんは遠隔授業の際、課題に対する先生からのコメントで遠隔授業の不安が和らいだことからこのアイデアを着想しました。服部さんは遠隔授業でもコメントなどやり取りをすることで先生との信頼関係は築けるとし、「ひと言だけでもコメントをくださると、モチベーションの維持にもつながります。短くてもいいのでコメントをくださると嬉しいです」と話しました。



Comment

「CousePower」で提出した課題にひと言でもコメントがつくとうれしくなりますし、逆に未評価だと「見てくださっているのだろうか」と不安になります。受領の返信があると安心します。

学生選考委員
藤田航輝さん



発表会を終えて

発表会の最後に武藤敬副学長から、「今日はとても役に立つ話が聞けて良かったです。本学はSDGsについての教育を全学的にしようとしておりますが、今日皆さんの発表を聞いてもっと他学部・他学科が交流できる授業形式というのを重視して考えていきたいと思いました。勉強内容だけではなく人の交流を重視すべきだと思います。貴重な意見をありがとうございました」とコメントがありました。

花井忠征副学長は「皆さんのスピーチがとても素晴らしかったです。今回は1・2年生の意見が多く、とても新鮮な意見を聞くことができました。今回応募いただいた作品を教職員一同真摯に受け止め、これからの魅力ある授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。このイベントは4年に一度ですが、大学で学生の声を聞く取り組みは他にもたくさんあります。さまざまなところで意見を聞かせていただけたらうれしいです」とあいさつしました。

第3回 中部大学発『魅力ある授業づくり』 — 学生と考える「魅力ある授業」— Good Idea賞 授賞式・発表会



会場にいた学生や教職員も
ディスカッションをする
時間がありました



授賞式・発表会の詳細は、記録集をご覧ください

2022年3月公開予定 乞うご期待!!

▶ 作品や講評は

中部大学 魅力ある授業 記録集

検索

